

(28) 有識者へのヒアリング（その5）

■ 専門家相互のネットワーク形成

／都市環境デザイン会議（JUDI）

取組の概要

- 専門家相互のネットワークづくりを目的として組織を発足した。
- 地域ごと、会員ごとの取り組みを重視し、全国的なネットワークを生かしてそうした取り組みをサポートしている。
- 会員や関連団体、組織の質の向上・意識啓発のため、都市環境デザイン演習、美しい都市ランキング、モニターメッセ等の多数の取り組みを実施している。
- 課題としては、入会資格を実務経験5年以上としているため中堅・若手層の会員が不足していることや、各委員会、事務局の負担が大きいことがあげられる。

【組織の概要】

専門家の横のつながりをつくることを目的として発足。北海道から沖縄まで400名以上の会員のネットワークを形成

- 都市・環境デザインに携わるさまざまな分野の人の連携を図るために設立した組織であり、実務経験5年以上を入会資格とする専門家集団である。
- 組織全体として統一した方針を打ち出して行動するというよりも、地域ごとの取り組みを重視し、地域の取り組みの紹介・サポートを、ネットワークを通して行う。
- 基本的にプロ集団であり、組織として住民との連携に強く取り組んではないが、会員個人・地域レベルでの設計・計画業務やワークショップ、フォーラム等の取り組みは多数実施されている。
- 基本的に会費やモニターメッセ（後述）の収益が活動資金源。
- JUDI有志による関連組織としてNPO法人化を申請中であり、事業受託に対応できる仕組みづくりを行っている。

【主な取組内容】

都市環境デザイン演習

- ・ メーカー、コンサルタント、地方自治体職員を対象に、ある都市（現在は成田市）をモデルに、課題を抽出し、課題解決のための実務的なデザイン演習を実際に行っている。
- ・ 短期間の講習であり、現実の計画や施策にはつながるものではないが、実務に即したデザインの訓練をする機会を提供するもので新しい取り組みといえる。

美しい都市ランキング

- ・ 専門家たる JUDI が客観的な視点で、「美しさ」の基準をつくり、全国各都市の評価を行っている。
- ・ ランキングを公表することで、地方自治体の景観に対する意識の啓発を促すことを目的のひとつとしている。

美しい都市ランキング中間発表

美しい都市を増やすことが目的



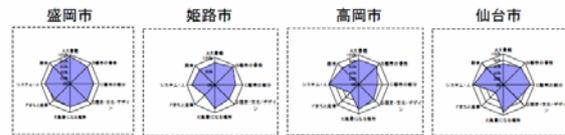
- ・ ランキングは、美しい都市を増やすための運動です。



ランキング(経過報告、中間発表)



- ・ 総合点.....220P
- ・ 城下町、古都、港町が多数。
- ・ 大景観(A)から都市の部分(C)までが総じて高い。
- ・ 歴史・デザイン、風景になる場所の評価の違いで、上位か中位かが分かれる。
- ・ まちと産業、システム・人はこれらの都市でも高くない都市も含まれる。



モニターメッセ

- ・ 全国の多数の専門家が登場する JUDI 総会の際を生かしてモニターメッセを開催。
- ・ 各メーカーが力を入れている商品を紹介してもらい、JUDI メンバーが専門家の目で批評を行う。企業側からすれば、専門家の意見が得られる点や他社メーカーの主力商品を見ることができるよい機会となっている。
- ・ 各メーカーは参加費を支払って紹介しており、JUDI の財源の一つとなっている。

出版

- ・ 定期的な出版物 (JUDINEWS) のほか、日本建築家協会等の団体と協力して書籍「日本の街を美しくする」を出版、関連シンポジウムを開催。



【課題】

- ・ 会員は実務経験 5 年以上の専門家と限定しているため、中堅、若手世代が少なく、メンバー数が減少している点が課題。しかし若手世代でも、JUDI 以外の学識者・専門家等のグループは特になく、学識者も学会組織等を通してのつながりしか持っていない様子。
- ・ 組織活動は本業の合間に行わざるを得ず、各委員会、事務局の負担が大きい。

都市環境デザイン会議 (JUDI)

設立：1991 年 5 月

組織：研修委員会、事業委員会、広報委員会、国際委員会、特別委員会 (美しい都市ランキング評価委員会)、地域ブロック (10 ブロック)